

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	太良町立多良中学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	前年度の重点目標は、学校運営「働き方改革」、知(確かな学力)「学力向上」、徳(豊かな人間性)「志を高める教育」[「心の教育」・「いじめ問題の対応」、体(たくましい心と体)「健康・体づくり」の6点であった。どの項目においても、達成度がA~Bの結果となり、概ね達成できたとの評価結果であった。
---------------	--

2 学校教育目標	自立の精神に満ちた豊かな人間力の育成
----------	--------------------

3 本年度の重点目標	①「学ぶことの楽しさ」を感じる、魅力ある・わかる授業づくりを推進し、学力の向上を図る。 ②自己肯定感、自己有用感を育て、自他を大切に、将来の夢の実現を育む。 ③道徳を中核とした教育活動全般を通して、規範意識を高め、豊かな人間力を育成する。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目							
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価	
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果
●学力の向上	●主体的・対話的で深い学びを目指した授業、分かる授業に向けた指導法の工夫・改善	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上を目指す。 ●生徒意識調査で「一人一人にわかりやすく教えてもらっている」86%以上を目指す。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・マイプランの成果指標の達成度の確認ができていないため、進捗状況を把握できていない。独自のアンケートで達成状況を確認する。 ・生徒の意識調査では、94.2%であった。	A	・マイプランに関してのアンケートでは80%が肯定的な回答であり、意識した授業づくりが行われていると思われる。 ・「一人一人にわかりやすく教えてもらっている」に肯定的な回答をしている生徒は97.5%であり、前回よりも増加した。
	○学習環境づくり	○意識調査で、生徒・保護者の家庭学習の充実度に対するプラス評価70%以上をめざす。 ○生徒意識調査で「どの授業も落ち着いて学習ができている」93%以上を目指す。	・「家庭学習のすすめ」を保護者に配布し、家庭と連携して家庭学習の習慣化を図る。 ・毎月1日を「ノーテレビ・ノーゲームデー」とし、家庭学習の充実に取り組む。 ・生徒、保護者に自主学習ノートの活用法や学習例を提示する。 ・学年掲示スペース、各教室の環境整備を図る。(校内研)	B	・家庭学習のアンケートにおいて、肯定的な回答をした生徒は92.5%、保護者は93.3%であった。 ・毎月の「ノーテレビ・ノーゲームデー」の実施状況は毎月約50%である。今後の効果的な取り組みが必要である。 ・「どの授業も落ち着いて授業ができている」の生徒の意識調査では92.5%であった。再度、指導方法の改善に努めたい。 ・学年掲示、教室の環境整備においては、常に新しいものが掲示されていることや、生徒の意欲喚起につながるようなものを掲示されており、充実している。	B	・家庭学習のアンケートにおいて、肯定的な回答をした生徒は87.4%、保護者は94.6%であった。生徒に関しては中間評価のアンケートより5.1%が下がっており、宿題の質の見直しが必要だと考えられる。 ・毎月の「ノーテレビ・ノーゲームデー」の実施状況は毎月約50%であり、この取り組み自体の見直しが必要と思われる。 ・「どの授業も落ち着いて授業ができている」では92.4%であり、授業改善ができていると思われる。 ・掲示物に関しては、常に新しいものが掲示され、充実していた。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○意識調査で、生徒・保護者の心の教育に対するプラス評価93%以上をめざす。	・学年のスタッフをチームとして全職員で道徳の授業を行い、生徒の道徳心(道徳的価値)の向上に努める。 ・道徳の指導案や資料を共有し、ICTを活用して授業の充実を図る。 ・道徳便りを発行し、生徒・保護者に情報を発信し、様々な考えや意見を共有するとともに、今後の道徳の授業に生かす。 ・ふれあい道徳を実施し、保護者に道徳の授業を公開する。	A	・道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒98.3%、保護者96.6%であった。 ・学年をチームとして、全職員で道徳の授業を実施することができている。また、作成した指導案や資料を共有し、互いに共有することで、より充実した授業を実施することができている。 ・道徳の研究授業を7月に実施し、互いに研修を深めることができ、その後の授業改善に役立てている。 ・保護者や地域の方が参画したふれあい道徳を12月に実施した。	A	・道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした生徒は前年度よりも増加した。 ・学年をチームとして、全職員で道徳の授業を実施した。臨時休業等で授業時間を確保しなくてはならず、35時間の授業を実施することはできなかったが、各学年において丁寧な教材研究を深め、授業を実施することができた。また、研究授業を通して、全職員が研鑽を積むことができた。 ・保護者の方にふれあい道徳や「道徳便り」、「学級通信」を通して、道徳の授業の様子を伝えることができた。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員85%以上をめざす。	・生活アンケートを月1回実施し、情報を共有しながら予防的関わりや早期発見、早期対応に努め、教育相談を適宜行っていく。 ・Q-Uを実施し、生徒の学校生活の状況を個別に把握することで、要支援生徒に対して日常的な支援を行う。 ・保護者との連絡を密に行うなど、小さな情報を見逃さないよう家庭・地域・関係機関との連携を強化する。	A	・生活アンケートを月1回実施するとともに、いじめに特化したアンケートも適宜行い、いじめの早期発見、早期対応に努めることができた。 ・Q-Uアンケートを2回実施し、生徒全体の状況把握と個々の生徒のアセスメントに生かすことができていく。 ・保護者や地域との連絡・連携を密に行うとともに、生徒が抱える課題に早期に対応することができている。	B	・月1回の生活アンケートやいじめに特化したアンケートも適宜行い、いじめの早期発見、早期対応に努めるとともに、気になる生徒に関しては職員会議等で共通理解をし、全職員で指導を行うことができた。しかし、12%の保護者がいじめの未然防止に対して否定的な意見であり、来年度の反省点である。 ・Q-Uアンケートを2回実施し、生徒全体の状況把握と個々の生徒のアセスメントに生かすことができた。 ・保護者や地域との連絡・連携を密に行うとともに、生徒が抱える課題に早期に対応することができている。
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○体験活動等を通して、自らの夢や目標の実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動 ・意識調査、生徒・保護者の活動に対するプラス評価80%以上をめざす。 ・自分には良いところがあるプラス評価90%以上をめざす。	・多良岳登山、福祉体験、職業人講話、職場体験、修学旅行での体験学習、自主研修等を通して、体験活動を充実させる。 ・キャリアパスポートを活用した計画的・系統的な進路学習に取り組む。	B	・「進路学習や体験学習」のアンケート結果は、あてはまる以上と答えた生徒は95.8%であった。コロナ禍で多良岳登山や職場体験、自主研修等が実施できなかったが、そんな状況下でも各学年が工夫を凝らし実施した。結果については、活動及び進路学習の成果であると思う。今後は、キャリアパスポートを活用した進路学習に取り組んでいく。 ・「自分には良いところがある」のプラス評価は83.8%で目標を下回った。特に1年生が66.7%と低い数値であった。1年生への自己肯定感を高める支援が必要だと思われる。	B	・「進路学習や体験学習」のアンケート結果は、あてはまる以上と答えた生徒は95.0%、保護者は90.1%と前回より若干下回ったものの、目標は大きく上回った。コロナ禍で体験学習がほとんど実施できない状況下で、上々の結果と思われる。これは、各学年の適切な進路学習の成果であると思う。 ・「自分には良いところがある」のプラス評価は89.1%で目標にはわずかに及ばなかったものの、全学年で前回は上回った。しかし、2、3年生と比較して、1年生はまだ低い数値であるので、今後も継続して1年生への自己肯定感を高める支援が必要だと思われる。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 ○家庭・地域と連携した「開かれた学校づくり」のための工夫・改善	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間等の上限を遵守する。 ○「健康に食事は大切である」と考える児童生徒85%以上	・毎週、水曜日を「定時退勤日」に設定し、行事黒板に提示する。 ・運営委員会、議案について細部まで検討し、職員会議は主に周知・確認の場として時間短縮を図る。 ・連絡事項は「スクールネット」「テレビモニター」を活用し、連絡会等の回数、時間を短くする。 ・学校だよりや学年・学級だより、学校情報メール等を活用して、家庭への連絡や情報の発信・提供に努める。 ・学校行事や授業に外部指導者(地域の方)を講師として招く。	A	・4月~12月までの時間外勤務の全体平均を40時間以内で取り組むことができた。 ・運営委員会の質の向上とともに、職員会議、連絡会を周知及び確認の場として時間短縮に今後とも取り組む。 ・ICTの活用を通して、業務改善をさらに進める。	A

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価	
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果
○特別支援教育の充実	○支援が必要な生徒に対する理解に努め、個に応じたきめ細かな対応ができる校内支援体制の構築を図る。	○意識調査で、生徒・保護者及び教職員の特別支援教育に対するプラス評価85%以上をめざす。	・個別の支援計画を作成し、特別支援会議やケース会議を適宜開催し、職員の共通理解のもと、適切な支援の在り方を探っていく。 ・夏季休業中に講師を招いての研修会を含め、特別支援教育に関する研修会を数回行うことにより、それぞれの生徒に対して適切な対応ができるようにする。 ・必要に応じて保護者、専門機関や特別支援学校等との連携を図る。	B	・特別支援学級生徒、障害のある生徒(可能性のある生徒)、のアセスメントを図るため、特別支援学校の巡回相談を2回実施し(うれしの特支、中原特支)、職員のスキルの向上につながった。 ・特別支援教育に関する校内研修会に教育センターから講師を招聘し、職員の特別支援教育に対する理解を深めることができた。 ・専門機関(特別支援学校、医療機関、SSF等)との連絡等も必要に応じ、行うことができた。	B	・意識調査の特別支援教育に対するプラス評価は、生徒・保護者が94.5%、職員が93.4%という結果になり、85%以上を目指すという数値目標は達成することができた。しかし、前回(9月)の意識調査と比較すると、生徒・保護者の数値はあまり変わらないが、職員の数値が100%から下がっていた。研修の内容などを吟味し、全職員の意識を高めた。
○学校行事への参画	○生徒の学校行事への参画意識の向上を図る。	○意識調査で、生徒・保護者の学校行事に対するプラス評価85%以上をめざす。	・生徒一人ひとりが役割を持ち、出番の機会が増えるように検討し、各学年行事等を実施する。 ・生徒会活動を中心に、「気づき、考え、行動する」を念頭に置いて指導を展開していく。 ・小中連携を活かし、生徒会活動をさらに活性化させる。	A	・意識調査では、「あてはまる」以上と答えた生徒が87.3%、保護者が98.1%であった。コロナの影響もあり、行事が縮小され、一人一役が徹底できなかった点が課題であった。 ・コロナで内容が大綱に減らされた中、どうすれば質を向上させることができるかアイデアを出して合って活動できている。 ・小中連携はコロナ感染防止の観点から必要に応じ可能な限り実施した(中学校説明会等)	A	・意識調査では、「あてはまる」以上と答えた生徒が90%、保護者が92.9%と年度当初の目標を達成するとともに、前回調査よりさらに数値が高くなった。学校行事の縮小はあったものの制限はあっても充実した活動ができた。生徒総会などはズームを使って実施できた。 ・コロナ感染防止の観点から、文化発表会等への小学生の参加はできなかったが、中学校説明会で、生徒による中学校生活の説明を行うことができた。

5 総合評価・次年度への展望	●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育 本年度の重点目標は、①「学ぶことの楽しさ」を感じる、魅力ある・わかる授業づくりを推進し、学力の向上を図る。②自己肯定感、自己有用感を育て、自他を大切に、将来の夢の実現を育む。③道徳を中核とした教育活動全般を通して、規範意識を高め、豊かな人間力を育成する。の3点であった。 ①については、校内研究を柱に各教科等において授業改善に取り組んだ。各教科等での一単位の授業の組み立てや生徒への課題の設定の仕方等を教員が工夫することで、教科に対する生徒の意欲の喚起や学力の定着につながったと考えられる。 ②については、コロナ禍の状況で可能な限り体験活動を仕組んだことや外部講師からの講演等とおして、自らの夢や目標の実現に向け努力する態度の醸成につながった。生徒の「自分には良いところがある」と肯定的に回答した生徒は、89.1%であり、特に3年生は92.7%が肯定的な回答であった。学年が上がるにつれ、自己肯定感や自己有用感の醸成につながっていると考えられる。中学校での様々な「学び」が効果的に働いていると考えられる。 ③については、道徳の授業や体験活動等とおして、生徒の道徳的価値や心情・意欲の向上につながり、生徒の規範意識の醸成を図るとともに、豊かな人間力の育成への手立てのひとつとなつたと考えられる。 次年度に向け、上記の取組を継続するとともに、様々な活動を意図的に仕組んでいくことで、学校教育目標の実現につなげていきたい。
----------------	--